



協働型災害訓練



開催運営のご案内



一般社団法人協働型災害訓練(CDT)

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目544番地1埼玉NPOハウス
TEL048-729-6151 FAX048-729-6152

協働型災害訓練の合言葉

直木賞作家「天童荒太」氏に産経エクスプレスで特集して頂いた時に、
頂いた言葉『「つながる」ことは「備える」こと』が活動の合言葉です

※ご本人から使用許諾を頂いています

「つながる」ことは「備える」こと

対談を終えて 天童荒太

東日本大震災により、「つながる」という言葉が生まれました。この連載は震災で教育の機会を失った子供たちに関わる活動をしている2人の若者との対話から始まりました。最終回となる今回、「すぎと〜」と「埼玉〜」という2つの団体のリーダーにお会いしたいと思ったのは、震災から生まれた「つながり」が、今どうかたちに発展しているのか、どういう風に人々に受け止められているのかを見られればと思ったからです。

「人の笑顔が好き」

日本は、災害を免れない国です。天災だけでなく、少子高齢化が招く人的被害、エボラ出血熱に象徴される新型ウイルスなどさまざまな脅威に直面している。そんな中、「つながる」ことは「備える」ことになるのではないかという考えが芽生えてきました。今回お会いしたみなさんは、まさにそれを具体的な形で実現させた取り組みをされ

実は、最初、この訓練の話を知ったとき、「杉戸町で大丈夫なのかな？」と思った。埼玉の一部の災害に対応するのではなく首都圏直下型地震の救援拠点としてですからね。アクセスがいまいけではないし、キャパシティにも限りがある。誰もが認める「ここ」という場所ではない。

しかし、実際に杉戸町を訪れて今思うのは、「ここでもできるなら、どこでもできる」ということ。もっと便利な場所は他にもあるかもしれない。でも、彼らは「やろう、やれる、受け入れる」と動いた結果、経験値を手に入れた。その経験値というのは、他のどんな条件よりも強いものだと思います。多くの人が知らないところで、将来にわたって人々の笑顔を守るために「まずやってみよう」と確かな信念を持って動いた実践家たちが、杉戸町だけでなく、他のあらゆる地域に希望のモデルをもたらしている。

それを実現させたのは、リー

震災直後、この大きな釜で自慢の「カップ汁」を被災者にふるまった。日頃の備えが災害時にいきなり
—埼玉県杉戸町（塩塚夢撮影）



協働型災害訓練のご紹介

協働型災害訓練の目的

- 1 将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくる
- 2 同時被災リスクの少ない複数の地域を集め、平時からの繋がりをつくる
- 3 行政・民間企業・NPO等の多様な主体が地域を越えて広く連携する
- 4 保有する資源・ノウハウ・マンパワーなどを有機的に結び付ける
- 5 D I Gを用い、自主防災組織のリーダーの資質と能力の向上を図る
- 6 一人でも多くの命を救うことができるよう I C Sを用いる



これまでの活動実績



平成27年度協働型災害訓練in杉戸



(左から時計回りに)
 図上訓練(本部班)
 川内村現状報告
 富岡町現状報告
 図上訓練(訓練班)
 提案型ワークショップ
 避難所運営ゲーム



NHK
 7:00「おはよう日本」
 にて訓練の様子がO A



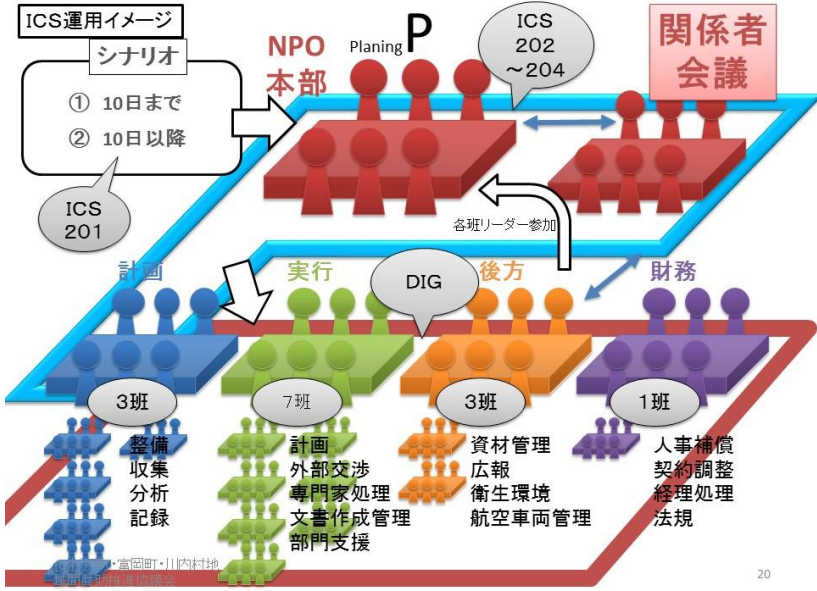
平成 25 年度協働型大規模災害訓練
 (国土交通省広域的・地域間共助推進事業)



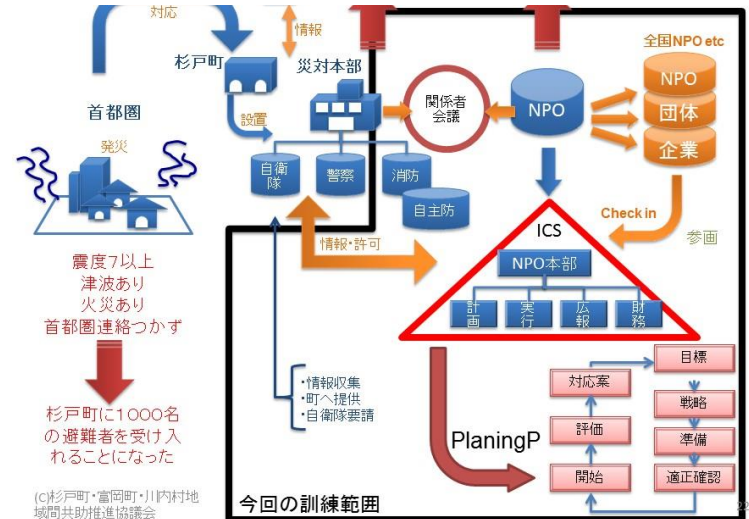
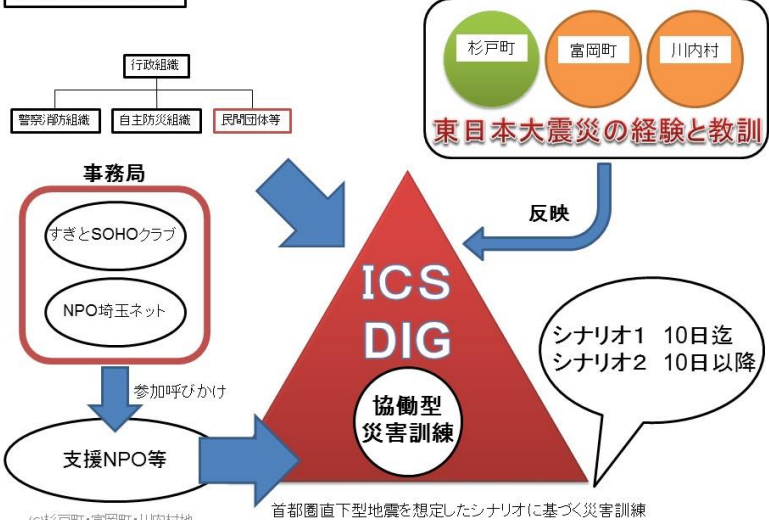
平成 26 年度協働型災害訓練 in 杉戸
 (市民キャビネット自主運営事業)

特徴① 世界標準の防災版ISO訓練

協働訓練の実施



協働型訓練概念図

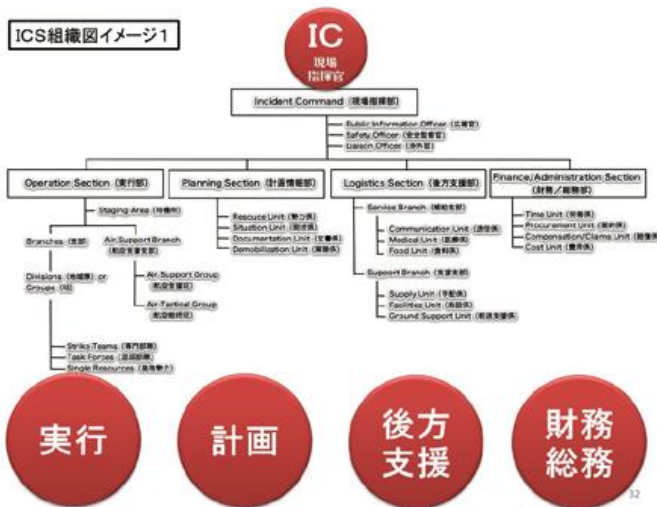




Incident (現場) Command (指揮) System (システム) の略。

命令系統や管理手法が標準化されており、大人数を活動目的のために効率的に管理する手法。1970年代に開発され、米国ではあらゆる緊急事態にICSを適用することが定められており、災害・事件の種類を問わず、日常の事件・事故からテロ事件・災害などの危機管理まであらゆる緊急事態対応で使用されている。

ICS組織図イメージ1



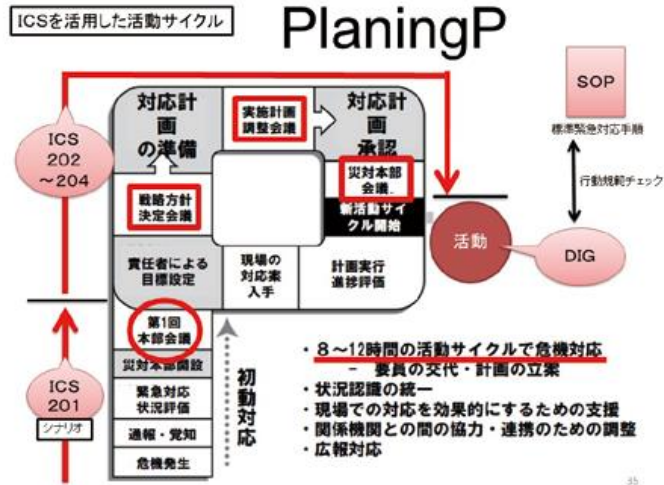
- ① 「ユニファイド・コマンド (統合指揮)」が用いられ、災害対策本部に設置された「IC (現場指揮官)」の下に指令命令系統が一元化される。
- ② ICの下には「4つのサポート部門 (実行・計画・後方支援・財務総務)」が設けられ、対応にあたるメンバーは必ずどこかの部門に所属する。
- ③ 各部門には「SOP (標準緊急対応手順)」で自らの行動規範が定められており、メンバーは与えられた役割のみを果たす。
- ④ 情報の伝達には「ICS201」から始まるフォーマット (報告用紙) が用いられ、情報が正しく伝わり把握される仕組みが作られている。
- ⑤ 活動には「PlanningP (プランニングピー)」が用いられ、ICにより許可された対応計画を8～12時間実行し、刻々と変化する状況を再評価して次のサイクルではその状況に合わせた対応を行う。

つまり、状況に合わせて作戦を発展、各状況下において対応計画を許可、必要な資源を要求していきながら、共通の目的の為、使える資源を最大限に展開させていくのがICSです。

?

DIG(ディグ)とは

Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム) の略。
 参加者が地図を使って防災対策を検討する図上訓練 (演習) のこと。
 ステークホルダーが一堂に会して行うことで、情報や課題や対策を多くの人々が共有できる手法。今日は災害想像ゲームといった様々な事例も見られ、地域防災力の向上に向けた自助公助共助の確立に向けた取り組みとして広がりつつある。



活動サイクル

- 1 発災後「ICS201 (状況評価)」が作成される
- 2 同「ICS201」を基に本部会議が行われる
- 3 第1サイクルでの目標設定と戦略方針を決定する
- 4 各部門において対応計画を策定する
- 5 再び本部会議において計画の調整と承認を行う
- 6 各部門において対応計画に基づき8～12時間の活動を行う
- 7 活動を行う際には「SOP (行動規範)」を確認する
- 8 進捗状況を評価し、対応案を入手する
- 9 第2サイクルに突入し、上記3から8までを繰り返す

?

HUG(ハグ)とは

H (hinanjo 避難所) U (unei 運営) G (game ゲーム) の略。
 静岡県が開発。避難者が抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

協働訓練の実施



特徴② プロを招聘したケーススタディ



総務省関東総合通信局（幾田室長）

(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会



JVOAD (明城氏)

(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会



東洋大学（八木准教授）

(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会



杉戸町（小澤氏）

(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会



九州救助犬協会(坂本氏)

熊本地震支援活動報告











(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

市民キャビネット(山中氏)

Incident Command System
CPIR Disaster management Text 1
～第4回協議型公民連携推進資料～

(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

MMIXLAB(村上氏)

ゆるれる大地・つながる・伝えるプロジェクト
東北・熊本・アチエ、そして東京

2017年 2月19日(日)～3月4日(土)
11:00～19:00
会場: 金野浜ホール/スペース・ゼロ 地下1層ギャラリー





(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

東埼玉総合病院(中野医師)

菜のはな




(C)杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会



仮設トイレなど避難所什器の使用訓練



福祉団体による車いす乗車福祉避難所訓練



総合病院看護師によるトリアージ体験訓練



総務省による外国人対応アプリ使用訓練

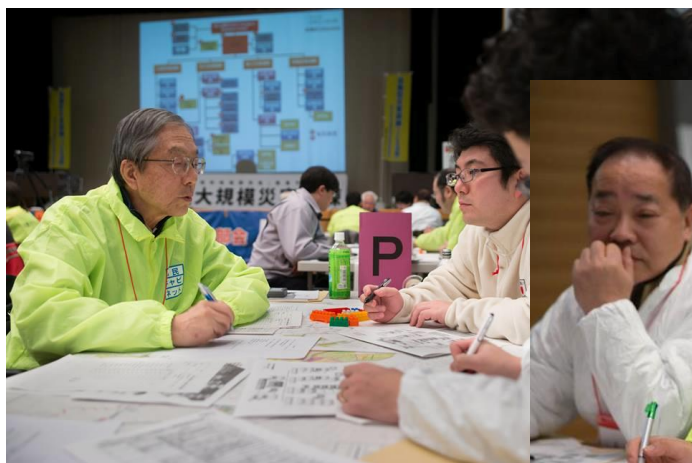


日本アマチュア無線協会による使用訓練

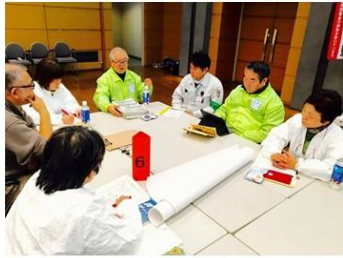


日本レスキュー協会によるセラピードッグ訓練

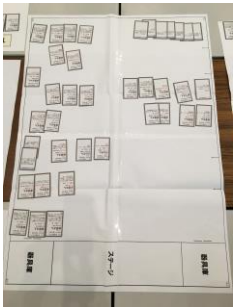
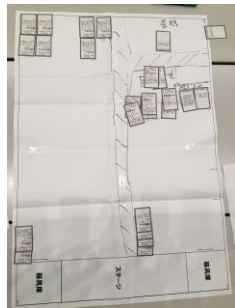
特徴④ 連携を活かした体験プログラム



防災士団体による避難所運営ゲーム



©一般社団法人協働型災害訓練



フードバンク連携による非常食体験



特徴⑤ 協働型災害訓練アウトプット

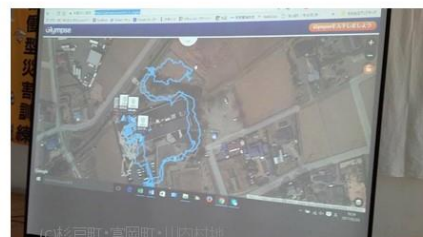


災害救助犬・ドローンによる協働デモ



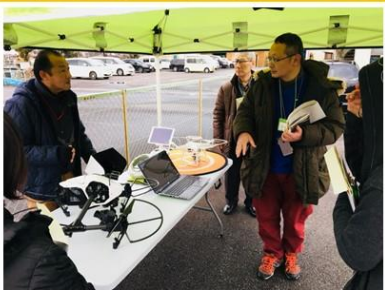
(C)杉戸町・富岡町・川内村地
域間共助推進協議会

ドローンによる災害情報マッピング



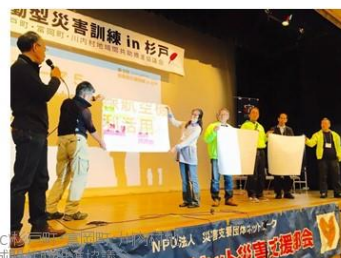
(C)杉戸町・富岡町・川内村地
域間共助推進協議会

マッピングチームによる3Dアウトプット



(C)杉戸町・富岡町・川内村地
域間共助推進協議会

プロポーザルワークショップ(省庁提言)



(C)杉戸町・富岡町・川内村地
域間共助推進協議会

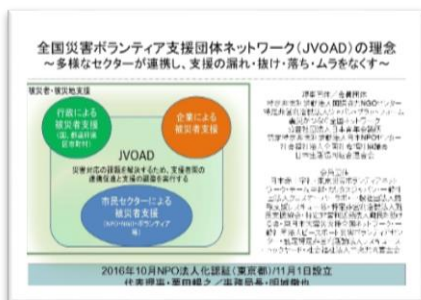
今後の展開について



防災教育の強化
サードセクター内における標準化と対応力の強化



行政との連携強化
自治体の積極参加と全国的な防災協定の締結の推進



サードセクター内での連携強化
限られた資源を有効活用し、より効率的な連携推進

CDTパッケージ展開について



セミナー形式

災害支援プロ講師陣によるテーマ講演を行います
60分50,000円～（交通費別途）講師一覧参照



ワークショップ形式

予め設定したテーマでワークショップを行います
10名から30名程度まで
90分100,000円～（調整費別途、規模に応じて）



参加型訓練形式

大規模会場を活用した訓練セミナーを企画運営します
30名から100名程度まで、基本1日開催
1日500,000円～（調整費別途、内容に応じて）

CDT講師一覧

氏名・所属・専門分野

秋富慎司：防衛医科大学校病院准教授（災害医療／ICS）

池本修悟：ユニバーサル志縁センター専務理事（若者就労支援／コミュニティーオーガナイズング）

上村光治：ホワイトボックス代表／防災科研元職（防災科研ネットワーク／ブロックチェーン）

清原光浩：防災科研研究員（防災科研ネットワーク／災害支援者保険）

後藤真太郎：立正大学地球環境科学部教授／市民キャビネットスマートICT部会長（GIS／ICS）

酒井千富：株式会社測設代表／訓練事務局（測量／ドローン）

豊島亮介：すぎとSOHOクラブ理事／NPO埼玉ネット事務局長（訓練運営／福祉／まちづくり）

中野智紀：東埼玉総合病院経営企画室室長／医師（地域医療ネットワークシステムとねっと）

沼田宗純：東京大学生産技術研究所／防災プロセス工学博士（災害対応支援システムBOSS）

松尾道夫：市民キャビネット災害支援部会／NPO埼玉ネット代表（NPO中間支援／救助犬派遣）

松島康生：災害リスク評価研究所代表（BCPコンサルタント／災害リスクアドバイザー）

小林幸生：市民キャビネット災害支援部会委員／IT DRAT監事（福島避難者支援）

山中邦久：株式会社セルフネット代表／SL災害ボランティアネットワーク埼玉（IT支援／災害対応）



CDTへのお問い合わせ

法人概要

種別 一般社団法人

名称 一般社団法人協働型災害訓練

構成 理事11名、監事2名(代表理事 豊島亮介)

設立 平成30年8月8日(登記完了日)

目的 当法人は、来るべき大規模災害等に備え、防災・減災のまちづくりを推進することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

活動

- ①協働型災害訓練の企画運営
- ②防災リテラシー向上ためのセミナーやフォーラムの開催
- ③防災コンテンツの普及促進
- ④災害支援オーガナイザーの育成と派遣、など

住所 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目544番地1 埼玉NPOハウス

連絡 Tel:048-729-6151/Fax:048-729-6152

kunren@futureworks.biz

<http://www.icsjapan.org/cdt>

